

令和3年度 学校関係者評価報告書

大阪市立工芸高等学校 学校協議会

1 総括についての評価

どの目標に対しても計画通りに教育活動が行われるよう取組んでおり、成果をおさめていると評価できる。取組がよく分かる自己評価の項目となっており、達成状況や取組の結果を丁寧に自己評価し、総括されている。学校全体の取組がわかるようになっており、非常によかった。各項目についての達成状況は、概ね達成できている結果になっていると思われる。

2 年度目標ごとの評価

年度目標：【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】

- ・工芸高等学校の運営に関する計画の取組について、各部、各委員会が個々に目標を立てて取組むべき内容を明確にしている。また、取組の成果についても明確に提示されており、わかりやすくなっている。
- ・イタリア研修旅行が実施できなかったが、リモートを利用し一般も参加できる企画として開催し、姉妹校との旧交を温めるなど工夫がされていた。
- ・コロナの影響で来校することが減少したので、来年度以降授業見学等の機会を増やしてほしい。

年度目標：【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ・進学希望生徒に対し、補習等を行った成果が大学入試共通テストに表れ結果が出ていることに理解を得られた。
- ・コロナ禍の中で、家庭や学校生活において不安を抱えている生徒に対する支援を行えていることに理解を得られた。
- ・工芸展などで生徒の作品を見て、その技術のレベルの高さに感心し、日ごろの先生方の指導のたまものだと感じる事ができた。
- ・コロナ禍で授業日数が減少するなどにはしたが、今後も外部講師を招いての特別授業などの取組を継続してもらいたい。

3 今後の学校運営についての意見

- ・本年度の年度目標全般について、計画通りの教育活動を行い、成果をおさめている。今後も適切な目的設定により着実かつ発展的に取組んでいただきたい。
- ・6学科でめざす生徒像が異なるが、それぞれの特色が活かされるよう取組んでいただきたい。